

## CAD/CAM が変える歯科医療の近未来



昭和大学歯学部長

宮崎 隆

### 【略 歴】

青森県出身

1978年 東京医科歯科大学歯学部卒業（歯学士）

1984年 東京医科歯科大学大学院歯学研究科修了（歯学博士）

1991年 昭和大学歯学部教授（歯科理工学講座）現在に至る

2003年 昭和大学歯学部長 現在に至る

一般社団法人 日本私立歯科大学協会 副会長

一般社団法人 日本歯学系学会協議会 副理事長

公益社団法人 日本口腔インプラント学会理事

日本歯科 CAD/CAM 学会 前会長

日本歯科理工学会 元会長

近代の歯科医療は歯科技工の専門化とともに発展してきたと言っても過言ではない。歯科技工の歴史をひもとくと、生体材料としての金属材料、セラミック材料、および合成高分子材料を用いて、先人たちの血のにじむような努力により、歯科独自の成形加工法が開発されてきた。そして個別の患者に高品質の修復・補綴装置を提供し、患者の健康回復に貢献してきた。

21世紀に入り、コンピュータ技術の進歩により、社会や経済だけでなく医療においてもグローバル化が進み、世界の歯科診療のあり方や歯科技工が大きく変革しつつある。デジタル診療機器や診療情報管理機器、新しい材料やインプラントを含む治療術式の開発と導入により、歯科医療が高度化してきた。CAD/CAMの導入、さらにネットワーク対応 CAD/CAM システムの導入は歯科技工におけるパラダイムシフトをもたらした。

しかし、患者中心の良質な医療を提供するためには、歯科医師を中心に歯科衛生士、歯科技工士の連携がこれまで以上に重要であることを忘れてはいけない。歯科 CAD/CAM の歴史を振り返り、現状を理解して、今後患者中心の歯科医療を推し進めるために、歯科技工士がどのように新しい材料とテクノロジーを活用すべきか、一緒に考えてみたい。